

# OPINION オピニオン・スライス SLICE

## — 神戸女学院のご紹介を

キリスト教主義に基づく全人教育、リベラルアーツの比較的小規模の、関西の女子教育の中では歴史が最も古い学院です。

## — リベラルアーツとはまだ日本ではなじみが少ないのですが

一つの専門分野に限定して学ぶのではなく、分野横断的に、広く教養を身につける教育システム。それを大学ではリベラルアーツ教育と呼んでいます。もともとはヨーロッパの大学でいわゆるプロフェッショナル・スクールというのがあって、ロ

神戸女学院理事長・院長

## 森 孝一さん

一、メディカル、そして、ディヴィニティ（神学）の各スクール、この3つが高度専門職だったんです。アメリカの大学はそうじゃなくて、リベラルアーツ、もっと広い教養を目指すということに主眼を置いて教育し、それから大学院での学びを通して専門職になっていきます。

## — 小規模ということですが学生数は

神戸女学院は中高と大学で、中高は1学年140名、大学は1学年が大体630名です。他の女子大の多くが学生数を増やしている中で、うちはこの規模を維持して少人数で丁寧な教育をやっている。

## — 学院の永久標語「愛神愛隣」とは新約聖書の「マタイによる福音書」

からとられているもので、「神を愛し隣人を愛する」ということです。ここで教育を受けてつけた力と能力を、ただ自分のために使うのではなく、それを人のために使う。これが「愛隣」です。その根本に、自分は神によって造られたものであるという謙虚な思い（愛神）から「愛隣」へと向かう、というような意味です。

## — 今年、ヴォーリズによって建築された学院の建物が重要文化財に指定されました

学校は、1875年に神戸にできました。だから、神戸女学院なんです。神戸に58年いて、学生数が増えてきたため、81年前の1933年に今の西宮市岡田山に移ってきました。そのと



きにキャンパス全体のデザインを、建築家であり、キリスト教の伝道に來ていたウィリアム・メレル・ヴォーリズに委託しました。

ヴォーリズは、全国に1,500 ぐらいの建物を建てていますが、その中でも神戸女学院は彼の代表作です。キャンパス全体のデザインを任せられ、しかも、非常に潤沢な資金がアメリカのクリスチャンからの寄付によって用意されました。彼の妻であった一柳満喜子が、神戸女学院音楽部の第1 期生であったということもあって、彼は力を傾注し、代表作になったのだと思います。

—— まだ100 年も経っておらず、しかも1 棟だけでなく12 棟まとめでの指定ですね

築80 年ぐらいで何故重要文化財に指定されたかという、歴史的に古いからというのではなく、デザインがすぐれているから、意匠的にすぐれているからというカテゴリーで指定を受けています。彼は、建物が人格教育というものに非常に大切なんだ、品格のある建物というのは美しい心を育てるんだという思いからこれを造ったんです。キャンパス全体のデザイン、建物だけではなくて周りの自然を含む、景観全体として指定されました。それで、名称も1 棟ごとの建物の名称ではなく「重要文化財 神戸女学院」となっています。キャンパス全体が指定されたということが非常に意味があることで、12 棟のうち11 棟は現在も毎日の教育のために使っているということが特徴です。

—— 女学院ご出身の方は各界で活躍されていますが、法曹界では

中高部は関西の中では大学進学という点ではトップクラスです。しかし、大学には法学部、医学部があり



ません。意識的に高度専門職につきたいと思う人は、医学部、法学部のあるほかの大学に行きます。そのような学生は非常に多い。当学院の特徴である国際性、英語を生かして国際弁護士としても活躍されている方もいます。

—— 弁護士、法曹界へ一言

法曹養成制度については思うところがあります。先に述べたとおり、昔、ヨーロッパでは3つのプロフェッショナルを育てるプロフェッショナル・スクールがあった。ところが、それがアメリカに入ってくると、まず教養教育だと。アメリカの場合には、まず教養教育を4年間やる。これがリベラルアーツ・カレッジというもので、東部のハーバード、イェールなどがアイビー・リーグと呼ばれているのに対して、リトル・アイビーと呼ばれています。超エリートは直ぐにハーバードに行かずに、まずリトル・アイビーに行く。その中にはスミスやマウントホリヨークという

超一流の女子大もあるわけです。

そこでは自分の専門にとらわれないうで一般教養、様々な分野をかなり高度に学ぶ。そして、そこを出た約8割の人は大学院に行くんです。医者になりたい人はメディカル・スクールに、法律家ならロー・スクールに行く。

日本の場合、ロー・スクールができて、ロー・スクールは2本立てになって、一般の法学部以外のところで学んだ人も弁護士になれるコースというものがあるようになってきた。これは素晴らしいことだと思います。ところが、医学部はまだできていない。ということは、18歳の段階で医者になろうと思ったら医学部に行かなあかん。これはドイツの教育の影響だと思いますが、専門教育というものが日本の教育の中心になってしまっています。それが受験生や受験生の親に影響して、やっぱり専門家になれる大学を選ぶ。もっと卑近な例では資格が取れる大学に行くという形で、当学院のような教養教育、リベラルアーツ教育というのはなかなか受け入れられないというところがあります。

しかし、社会の現場で活躍している皆さんから見て、資格や専門というものが本当に社会で求められるのかということになったら、それは違うのではないかと。やはり教養や人格が基本にないとだめなのではないかと。もっと教養教育というものに比重を置いて、法曹界の場合は未修コースが盛んになるように、大学を出てからロー・スクールに入っていけるような形になれば、日本の法曹界ももっと豊かな人材が出てくるんじゃないかと思っています。

(Interviewer・Photo : 桂 充弘)